

Jazz Interview vol.55

ジャズからロックまでジャンルを超えて
活躍する名ドラマー

シンディ・ブラックマン・サンタナ 【Cindy Blackman Santana】

ジャズ・ドラマーとしてデビュー後、レニー・クラヴィッツやサンタナのバンドをはじめ、ジャンルを超えて活躍する女性ドラマー＝シンディ・ブラックマン・サンタナ。昨年8月には自身のヴォーカルも披露したシングルを発表し、2019年には新作のリリースも控える中、11月18日に誕生日を迎えたばかりのこの名ドラマーとのインタビューが実現！

★巻頭特集にシンディさんの3つの願いも掲載！

【2018年11月取材・文：加瀬正之】



Photo provided by Cindy Blackman Santana

● 昨年8月にリリースされたニューシングル『Fun Party Splash (feat. Carlos Santana)』では、ドラムだけでなくあなたの素晴らしい歌声も披露していますね！ このシングルを発表した経緯について聞かせて下さい。また、近々ヴォーカル作品が聴けるチャンスはありますか？

ありがとう！ 歌うことは当初予定していなかったんだけど、カルロス（サンタナ）とナラダ・マイケル・ウォルデンが熱心に勧めてくれて歌うことに決めたの。ナラダは私と7つのヴォーカル・ナンバーをプロデュースしているのよ。既にたくさんのインストゥルメンタル・ナンバーを録音していて、それから私とナラダがヴォーカル・ナンバーを共作してスタジオに入ったの！ 新作のタイトルは『Give the drummer some』で、2019年の春か初夏にリリースされる予定よ！

● ドラム始めたきっかけについて聞かせて下さい。

7歳の頃にドラムを始めたんだけど、始める前から叩きたいと思っていたの！ でも、その時私はとても若かったから、私がドラムを呼んだのではなく、むしろドラムが私を呼んだんだと思うわ。あるいは、その時にプロとして演奏しようと思ったのかもしれないけど、私にとってはごく自然な流れで、本当に第二の天性ね。それは正に私がやりたかったことだとわかってたの！

● 日本にどんなイメージを持っていますか？ また、来日の予定はありますか？

日本を心から愛しているわ！ 前回訪れた時はサンタナと一緒にとても楽しい経験をしたの！ 日本のみんなは音楽と共に生きて、創造することが好きで、ジャズが好きで、そして、ドラムも好きだからね！ その全てが私に日本愛をもたらすの。そして、美しい日本の文化も愛しているわ！

小さいものから大きなものまで全てディテールに気を配っているところも好き。私自身が繊細さにこだわる人間だから、とても感銘を受けるの。また日本に行くのが待ち遠しい！ 私のバンドと一緒に連れて行くことも楽しみにしているわ。

● 1980年代にニューヨーク・シティでストリート・パフォーマーとしてキャリアをスターしたと聞いていますが、その頃は誰と一緒に演奏していたのですか？ また、その当時のあなた自身に声をかけるとしたら、何て言いたいですか？

その通りよ。私はニューヨーク・シティのストリートで演奏していたの。そこには数人の素晴らしいミュージシャンがいたわ。バンドのリーダーだったジョージ・ブライスにキム・クラーク、トミー・タレント、ラリー・スミス、マーク・マクローリン、ヴィンセント・ハーリング、スティーヴ・コールマン等、その他にもたくさんいたわ。もし当時の私自身に声をかけるとしたら？ う〜ん…、何て言うかしらね…、多分「あなたがやっていることをやり続けなさい！ そして、更にもっとそれをやり続けて！」と言うかしら（笑）。

● 2010年にカルロス・サンタナさんと結婚されましたが、結婚前と後ではミュージシャンとして演奏面や気持ちに変化を感じますか？

もちろん感じるわ。何故ならそれは誰かと人生を共にする時、アイデアも共有することになるでしょ。相手にもアイデアがあるし、自分自身にもアイデアがあるからね。私の夫はたくさんアイデアを持っているし、私もそうだから、それを合わせることで別の観点や視点で物事を理解することができるでしょ。

● ドラマーとして最も大切なことは何だと思いますか？

最も大切なことは、音楽そのものを満足させること！

● レニー・クラヴィッツのバンドに1992年から2007年まで、2014年と2015年にも再び参加していますね。どのような経緯で参加したのですか？ また、ジャズ・バンドではなく、ロック・バンドに参加することを決めた時はどのような気持ちだったのですか？

レニーのバンドに参加したのは、彼の音楽とバンドのメンバーが好きだったからよ。ジャズはお気に入りの音楽だけど、他のスタイルを演奏することも楽しいの。私たちがいたレニーのバンドは最高だった！ ファンク・ロックの爆音が凄まじくて最上級にタイトでファンキーでロック魂が溢れているわ！

● あなたと縁が深い3人のアーティストについて聞かせて下さい。

【トニー・ウィリアムス】

私のお気に入りのドラマー！ しっかりとしたコンセプトを持っていて、サウンドとテクニックの革新者ね。巨匠達の巨匠！ 偉大な作曲家であり、素晴らしいドラマーでミュージシャン！ 正に音楽とドラムの達人ね！

【レニー・クラヴィッツ】

ファンキーで素晴らしい感性を持ったロック・ミュージシャンであり、素晴らしいシンガーで作曲家。マルチプレイヤーだから、異なる要素を聴き分けられる優れた才能を持っているわ。

【カルロス・サンタナ】

驚くべきギター・プレイヤー、ミュージシャンで素晴らしいサウンドを生み出すの。音楽における思想家でとても素晴らしいアイデアマン！ カルロスは音楽の中の色彩とサウンドの領域が明確に見えるの。彼は勉強家だから、アイデアやジャンル、構成、音色、音楽の中の方向性に関する多様なボギャブラリーを持っているわ。

● あなたが好きで素晴らしいと思うベーシストを3人挙げて下さい。

【ロン・カーター】

彼の感性、ハーモニック、音楽家的姿勢、そして、彼のサウンドは革新的な構成要素の一つだと思うわ！ 彼は正にミュージシャンの巨匠よ！

【バスター・ウィリアムス】

温かくて美しいサウンドと感性を持っているわ。

【ジャコ・パストリアス】

驚くべきエネルギー、素晴らしい感性、同時に音楽の才能が豊かで斬新ね！

● 新作のリリース予定はありますか？ また、参加予定の他のアーティストの新作などがありますか？

ええ、あるわ。私の新作のレコーディングを終えれば



かりで、来年の春か初夏にリリースされるのを楽しみにしているわ。その新作ではドラムを演奏して、歌も歌っているのよ！ カルロス・サンタナ、ジョン・マクラフリン、ヴァーン・リード、カーク・ハメット、マシュー・ギャリソン、ベニー・リードヴェルト、ニール・エヴァンス、その他にも本当に素晴らしいミュージシャン達をフィーチャーしているのよ。

● あなたにとって“ドラム”とは？

私にとってドラムは人生そのもので、表現するため、また、コミュニケーションを取るための最善の手段でもあるわ。ドラムは私の喜びでもあり、何というか…私そのものね！

● あなたの夢や目標は何ですか？

最も高貴で知性があり、崇高でソウルフルで革新的な音楽を演奏することによって人々を一つにすること！

● 最後に「The Walker's」読者と日本のファンにメッセージをお願いします。

こんにちは、日本のみなさん！ 音楽をサポートしてくれてありがとう！ 愛することと幸せでいることを忘れないで。それはあなたたちが生まれながら持つ権利で、人生の美と恩恵を解き放つ鍵なの！ あなたたちの笑顔に会えることを願っているわ！ 愛と光を

【Cindy Blackman Santana オフィシャルウェブサイト】

<https://cindyblackmansantana.com>

CINDY BLACKMAN SANTANA



Fun Party Splash
(feat. Carlos Santana)

Cindy Blackman Santana
シンディ・ブラックマン・サンタナ

2017年8月25日にリリースされたニューシングル
自慢のドラムだけでなく、見事なヴォーカルも披露！
【P16にCindy Blackman Santana ディスコグラフィー掲載】